

## 『中学生の部』優秀賞

# ハリネズミの願い

西朝明中学校 三年

佐藤 阳

親愛なるどうぶつたちへ  
ぼくの家にあそびに来るよう、  
キミたちみんなを招待します。

でも、だれも来なくても大い  
じょうぶです。

何故か分からないが、私は読  
み始めからこの本の雰囲気が大  
好きだった。私はこのハリネズ  
ミを親しみを込めてハリーと呼  
ぶことにしよう。

ハリーの頭の中で、繰り広げ  
られる究極の妄想ワールド。

「大丈夫だよハリー、そんな  
事は起こらないって。」と心の  
中で励まし続けながら本を読み  
進める。しかし、「でも……」

という小さな声が聞こえたよう  
な、そんな気がした。

ゆっくり寝られる冬を心待ち  
しているカメも。珍しいダン  
スのステップを知っているサイ  
も。何か美味しい物がないかと、  
家中を探し続けるクマも。家  
の中をめちゃくちやにして、君  
を驚かし乱暴に掴むバケモノ  
も。誰もそんな事をしたりしな  
いのに。正にハリーは、自分に

自信の無い臆病で寂しがり屋な  
ヤツで、どつかの誰かさんと良  
く似てた。ハリーの頭の中で起  
る五十九もの想像上のストー  
リーや、ハリーの

「でも……」

を風船のように膨らませる。で  
もねハリー、僕の住む世界も、

君の妄想の世界とそう変わらな  
いんだ。そして、君の頭の中で  
起る妄想ワールドは、僕ら人  
間の頭の中でも起こることがあ  
るんだ。お喋りな人、怒りっぽ  
い人、いろいろな事をズバズバ言  
う人、そんないろんな人たちが、  
僕の部屋のドアをノックすると  
思うと、僕だってちょっとびつ  
とするんだ。

## 『中学生の部』優秀賞

# 無人島で生き残る 知識と勇気をあたえてくれる本

港中学校 一年

川田琥太郎

物語を通して動物達が沢山登  
場するのだが、そのほとんどが  
ハリーの想像の中のお話。そし  
てハリーは「だれにも訪ねてき  
てほしくないんだ」という自分  
の気持ちに自分の妄想を通して  
気が付く。しかし最後には、ハ  
リー自身が自然体でいられる相  
手があらわれて、その相手とお

う人、そんないろんな事をズバズバ言  
う人、そんないろんな人たちが、  
僕の部屋のドアをノックすると  
思うと、僕だってちょっとびつ  
とするんだ。

「やあ陽、君と僕つてとても良  
く似てるね。」オランダで生ま  
れたハリネズミの物語が僕の部  
屋のドアをノックした。

『ハリネズミの願い』  
(トーン・テレヘン、新潮社  
二〇一六)

新潮社



方など様々だ。ぼくが一番興味  
を持ったところは、食料を自力  
で確保する方法だ。無人島に  
は、スーパーやコンビニ、レス  
トランなどはもちろん無い。そ  
んな中で大切な事は、自然の中  
で食べ物を確保する事だ。小動  
物や鳥を獲るためにワナの仕掛け  
は昔の人の知恵がつまつたも  
のだつたり、自分でもやつてみ  
たいと思うものがたくさんあつ  
た。例えば、エサをまいた地面  
にザルや、カゴを細い棒で支え  
て仕掛けるザル式ワナや、竹の  
反発力を利用して、一気に鳥を  
氣絶させて獲る竹バネ式ワナ  
は、自分でも出来そうだと思つ  
た。でも、そんなに簡単にいか  
ないからぼくはきっと落ち込む  
だろう。

それなら持つていくのは、一  
人ぼっちの無人島を楽しく過ご  
すためのポップで楽しくなるよ  
うな本でもいいかもしない。  
例えば空想の世界の本などだ。  
おもしろいし楽しい時間になる  
だろう。けれど、読んでいるう  
ちにぼくは素手で木を切れるつ  
もりになつたり、空を飛べる氣  
になつたりもしそうだ。もちろん  
そんな事は出来ない。

こうして考えると、ぼくは読

書には、二種類あると思う。実  
用的な知識を得るために読書、  
娯楽としての読書である。ぼ  
くは、どちらの読書も好きだ  
し、無人島に一冊持つていく本  
にどちらを選んでも、まちがい  
ではないと思う。ただぼくは、



